

# 第1回奈良県こども・子育て推進本部会議 議事概要

女性活躍推進課

○日時：令和5年7月21日（月）9：55～10：15

○場所：県庁5階 第一会議室

○参集者：別紙のとおり

## <湯山副知事発言>

資料前半に厳しい数字が並んでいる。逆に申し上げれば、施策を講じていけば、地域の状況、子育てに関する状況を大きく改善していける余地があると読み取れる。背景には様々なものがあり難しい面もあると思うが、取組の効果は大きいのではないかと考えているので、ぜひ検討をお願いします。

スケジュールとしては、秋頃に向けていろいろな取組、施策を作っていく段階に入っている。各部局において力を入れてもらいたい。

今回の会議メンバーも、実質的にしっかりと議論する場にしたいという知事の指示のもと、部局長だけでなく次長にも入っていただいている。

奈良県のこども・子育て施策の内容を充実したものにしていけることが今後の課題と考えるので、よろしくをお願いします。

## <知事発言>

湯山副知事から話があったとおり、奈良県に関する数字が厳しく、保守的な県民性が表れた数字が並んでいる。女性就業率が全国最下位、人口あたりの保育所数が全国最下位、固定的性別役割分担意識が全国で最も高い、女性の家事従事時間が全国で最も長いといった状況。

こうした数字は、本県に特徴的な数字で、県民の意識の奥底にあるものを少しずつ、必要に応じて変えていくことが、社会全体で子育てを支援しようというようなあたたかい県民性を醸成していくものと認識している。施策を進めることで意識が徐々に変わっていき、意識が変わることで新しい施策も生まれてくる。県民の意識を変えていただくための旗振り役を、県が担っていく必要がある。

本県に特有なことではないが、県の平均初婚年齢が男女ともに高く、また全国的に、一生結婚するつもりはないと答えた方の割合が過去最高となっている。結婚については個人の自由に関わることであり、あまり政治や行政が踏み

込みすぎるのはどうかと思うが、一方で、例えば出会いの機会がないというのは施策の問題であり、結婚を前向きに考えられないというのは意識の問題である。結婚や子育てが負担だという意識を持っている若い人が多いと思うが、負担もあるが良い面もある。子育ては親育てとも言われ、親自身の至らなさを痛感して親自身も成長できる。

結婚や子育てに関するネガティブな情報のみならず、ポジティブな情報を発信し、結婚や子育てに対してニュートラルに考えていただくような意識啓発が必要ではないかと感じている。

非常に大変な取組だと思うが、これまで子育てといえば女性活躍推進課や奈良っ子はぐくみ課の業務であったかもしれないが、様々な部局にまたがるものだと思うので、本日参加いただいているそれぞれの部局がこども・子育て施策をスピーディかつ着実に進めてもらうようお願いする。

## こども・子育て推進本部員 一覧

職名
知事 [本部長]
副知事 [副本部長]
知事公室長
総務部長
南部東部振興監
危機管理監
文化・教育・くらし創造部長
こども・女性局長
こども・女性局次長
福祉医療部長
医療・介護保険局長
医療政策局長
医療政策局次長(医療政策担当)
産業・観光・雇用振興部長
産業・観光・雇用振興部次長
県土マネジメント部長
地域デザイン推進局長
教育長
教育次長
警察本部長